青森博物研究會時報
第一卷、第二號（昭和九年十二月）別刷

和田干藏

博物展の御蔭で新に分布の闡明した蛇と蝸牛の珍品

博物展の御蔭で新に分布の闡明した蛇と蝸牛の珍品

和田干藏

昭和九年九月七日から十一日迄開催された東奥日報社主催の青森縣博物展覽會は、吾等縣民に幾多の生きた知識を與へたのであるが、就中左記數種の動物は本縣にも分布してゐた事實を確めたことは學界で受けた恩典である、そこで私は同會に對する謝恩の意味で青森博物研究會時報に要點を掲載し會員諸氏に紹介致度いのである。

一、アカヂムグリ　Elaphe japonica MAKI

この蛇は**ヂムグリ**（方言**アブラヘビ**）に似て居るもので、日本では從來本州（日光白根山）から一疋北海道（阿寒湖附近）から二疋計三疋捕られてゐる記錄がありますが、本年八月村井三郎氏が十和田山中から薄紅色の完全な成蛇一疋を押へて陳列したので、日本ではこれで四疋目の珍蛇となり本縣にも分布してゐることが判明したのである（標本は私が保藏中）。

二、ペルリヒダリマキマイマイ　Euhadra quaesita Perryi (JAY)

大間小學校の出品で開會中は單に**ヒダリマキマイマイ**の名稱でおきましたが、その後鳥羽源藏氏の鑑定によつて上記の名稱を有する珍品なることが判明した、この蝸牛は普通の左卷蝸牛の亞種で兩者よく似てゐるが、螺塔が幾分高く全體褐色を帶んでゐる。この分布は奥羽地方から南は伊豆七島、西は越中、伊勢、へといふ風になつてゐるが、東北地方產としては今回は初めてのものだとされてゐる、そして大間はその分布最北限地帶で而も饒產するといふ点

は學界から羨望される樣になりました（標本は私にある）。

三、オホスミウスカワマイマイ　Bradybaena (Acusta) Praeternus (PILSBRY et HIRASE)

之も大間小學校の出品で大間の辨天島から捕つたもので、開會中は單に**ウスカハマイマイ**と名を附けてゐましたが、後で鳥羽氏によつて**オホスミウスカワマイマイ**なることが判明した、これは小形の右卷で殼の硬い淡紅褐色のもので一つの容器に三十位容れられてあつた、これは熱帶系の分子で**オキナハウスカハマイマイ**系統に屬し、北方の大間を最北限分布點として繁榮せることは學界に誇りとすべき價値あることが判つた、この珍品は如何にして大間の辨天離島に栖む樣になつたのかその理由を研究する必要が生じて參りましたが、恐らく近時の頻繁な交通が或南九州產植物に附隨移動したものでないかしらと學者が語つてゐる位である（標本は私が保藏中）。

以上は活きた出品であつたが同展覽會の主旨が死物を出品しないことでしたから、私が八甲田山から蒐めた死んだ蝸牛を出品しませんでしたが、展覽會の爲に用意した蝸牛の珍品が二種ありますから序に紹介致ます。

一、ブダウマイマイ　Bradybaena (Acusta) Flexillis (TULTEN)

八甲田山の項上附近にゐる殼は薄い右卷の淡黃褐色をしてゐ葡萄狀をした中形の蝸牛で、**イハイテフ**の葉を嗜んで喰べてゐます、從來私等が**ムツマイマイ**として取扱つてゐましたが、鳥羽氏の鑑定で**ブダウマイマイ**なることが判りました、同時にこの分布が樺太と北海道（小樽）であることが判つてゐるが、本州の我八甲田山に分布してゐたことは新記錄であつたことも判りました（標本は私にあります）。

二、イハデマイマイ　Buhadera grata iwadersis

イハデマイマイ(岩手蝸牛)は新亞種であるが未だ發表になつてゐないさうです、**ムツヒダリマキマイマイ**(陸奥左巻蝸牛)に似てゐるが殼が扁平で螺層が多い特徴がある、これも八甲田山に見られるもので荒川の上流によく見られるが、この夏蛇捕りに行つた時に新湯から城ヶ倉溪流にかけて流れのある藪に脱殼が落ちてゐたのを見ました、これも珍品だと鳥羽氏が語つてゐます(標本は私が保藏中)。

以上申上た通り今回の博物展覽會によつて新しき分布を知り、且本縣と北海道或は岩手縣との分布關係が明かとなり、奥羽山脈系と太平洋沿岸との關係なども蝸牛ばかりでも解決することが出來る樣になつたので、同展覽會の有難さを衷心から感謝するのであります、終りに蝸牛の種名判定に勞を御執り下さいました鳥羽源藏氏に深甚の謝意を表します(昭和九年十二月十三日稿)。